

會學濟經學大國帝都京

# 叢論濟經

號二第卷一十五第

月八年五十和昭

哀辭 故財部教授遺影署名及原稿

### 論叢

支那の農家負債と農地の抵押……………經濟學博士 八木芳之助  
水産資源の保全について……………經濟學博士 蜷川虎三

### 時論

東亞新秩序建設と新國民政府の發展性……………文學博士 矢野仁一

### 研究

民國初期の兌換券……………經濟學士 徳永清行  
自由貿易主義の吟味……………經濟學士 岡倉伯士

### 記事

財部教授逝く  
故財部教授年譜及著書論文目錄

### 追憶文

神戸 正雄 本庄榮治郎 蜷川 虎三  
木村喜一郎 吳文炳 宗藤 圭三  
青盛 和雄 松岡孝兒 石川 興二  
黒正 巖 藤本幸太郎 谷口 吉彦  
岡崎 文規

### 附錄

彙報  
外國雜誌論題

## 恩師を追慕して

青盛 和雄

財部先生に御指導を辱うせる幾多の門弟中不肖は云はば末つ子弟子として格別に可愛がつて戴いた様に思はれるので、師の病篤しと知つてから僅か數週後の餘りに慌しく而も永遠なる訣別に直面して、殆んど茫然たる有様で、先生は未だ現世に生きて居られる様な氣がしてなりません。併し斯うして還曆記念論文集に輯める筈であつた年譜や著作目録を作らせて戴いて見るともう先生に御相談申し上げる機會は永久に來ないことに今更乍ら思ひ及んで、急にたまらなくなつて思出の二三を録して置きたく禿筆を執りました次第です。扱、話は昭和九年夏にまで溯りますが、當時眞如堂附近の去る本草學者の墓碑銘を石摺する様にとの事で私等の如き下手な眞似事の技術では到底駄目なので、出來上つたものは其儘手許にお預りしてあります。

其後思ひ掛けなくも右の石摺の際に残つた一枚の書仙紙に、「太上師天次師人」と二行に大書して戴いたのが、唯一の記念となつて了ひました。意味は太宰春臺の經濟錄中に「次師書」とあるのが省略してある所から察しますと、吾々未熟なる修業者が書物を讀むことは當然の事として、唯其の際に如何なる人生觀で學問して行くべきかを御指摘下さつたものと存じます。この座右の銘からこの師この人を失つた現在となつては、唯々天を仰いでこの大宇宙を師とするばかりになるのでせうか。

今年の春は昨年からの降雨不足で都鄙相共に水を渴望して居りました頃、私が何時まで雨が降らないのでせうと尋ねるともなく申しました處、先生は正月餅の皷割れ具合から判斷して恐らく四五月頃には大雨が降るだらうと仰せられました。果して梅雨は充分に降り續きました。私は決して先生を豫言者扱ひにする積りは毛頭ありません。人口統計學に於ても將來人口の豫測に就いて先生は寧ろ其の不可を戒律として居られ

ました位です。唯財部先生の易經に關する御論作が易經に所謂る未濟に終つたことが残念です。この事は先生の御生命に於ても御講義並びに御述作に於ても絶えず續いて永久に滾々と流れてゐるものがあると吾々に確信させられます。易經程傳に「未濟則未窮也、未窮則有生之義」とありますが、誠に其通りです。

先生の學問的態度や人生觀は頗る嚴肅なるものが御座いましたが、吾々子弟に對しては親切にして周到であり、其の溫情は寧ろ南國的な熱血を偲はせるものが御座いました。私事にのみ互つて恐縮ですが、この三月末に不肖の統計學會報告の件でお伺ひした時に、ゆくりなくも昨年失つた不肖の亡兒の事に觸れた話になりましたのをあはれとも思召されてか、陶製の觀音像を賜はりました大慈大悲の程は、或は今日あるを豫感させられます因縁として思ひ起されます。

先生が愛藏された書籍の山積せる中から、必要な本を的確に探し出されたことは驚くべきことです。之は單に御藏書の範圍内に限らず、汗牛充棟の廣い世間と

いふ大圖書館の中からも絶えず良書を指摘し、或は其を蒐集なされるだけの鑑識眼なり能力をお持ちであつた證據です。師危篤の状態を感じさせられた頃、恰度 Jakob Bernoulli から Christoph Bernoulli に至る九人の數學界の碩學の家譜を調べて居りましたが、この Christoph Bernoulli の Handbuch der Populationsistik をも藏して居られるのを知つて、先生幼にして數學的天才の片鱗を示された御逸話と共に懐しくもあり、且感嘆させられました次第です。

不肖も先生から數々の良書を御指摘戴きました中でも終生忘れ難いのは Georg Hansen の Die drei Bevölkerungsgesetzen です。恰も支那事變勃發の夏に特にこの書を譯述出版すべきことを端書で仰せあり、翌年の師走にはこの未刊の譯本に對し、御懇切なる序を賜はりましたにも拘らず、不肖はハンセンの傳記の不詳を理由に荏苒として日を空しうして了ひました。そして漸くこの著作解題の端緒を得て、せめて先生の御還暦までには上梓して喜んで戴けようかと夢想致して居

りました甲斐もなく、事變三週年記念日の早曉を御臨終として遂に先生はおかくれになつて了はれました。噫、餘りに事の遲過ぎたことを嘆くと共に、餘りに悠々として不敏の限りを致しましたことを思つて、不覺の涙に悲泣しつゝ靈前に深く御詫び申します。

晩年の先生から慈愛を以て導かれ、眞實なる智識への眼を幾分乍ら開かせ戴いた御恩徳は、師の遺弟たるものとして實にや身を粉にしても報すべく、骨をくだきても謝すべきだと存じます。どうかやすらげく將來永く御見守り下さいます様に御願申し上げます。